

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

日本語の情感を意識する季節の花々が咲き始めた。梅がこぼれ、桜が散って、牡丹が崩れ、椿が落ちる・夏に朝顔が萎み、秋には菊

が舞う。一様に咲いては散る花なのに、日本人はその散り際を花ごとに使い分け美意識が優れていると感じてきたが、花を求めて海外からの多くのお客様が全国の花の名勝地を賑わせている。

今年皇太子さまが新天皇に即位される5月1日が祝日になるため、4月27日から5月6日まで10日間の超大型連休になる。そして4月25日から6月16日は、第36回全国都市緑化信州フェアが松本平広域公園(信州スカイパーク)をメイン会場に「信州花フェスタ2019・北アルプスの

贈り物」が開催され、国営アルプスあづみの公園はサブ会場となり「空中回廊で林の中へ、高地に咲く可憐な花々との出会い」をテーマに「花」が注目される絶好の機会に恵

おいのある街じゆりに寄与する事を目的としている。行政や観光関係者だけが取り組むイベントでなく、終了後も地域に根付くイベントにするには、地域住民の意識高揚が最も大

切に人の輪が作られて、地域の人らが「教授」となって、みんなが気軽に学び合いながら、地域の人やモノが交流する魅力ある取り組みだと紹介している。ゆとりや自由を大切に人の輪が作られて

## 自然がテーマのイベントの成功は、人の継続した想いの積み重ねが大切だ

まれた季節を迎えようとしている。

切なポイントだと再認識してほしい。

いる地域は、訪れる人にとっても居心地感はずっと素晴らしいに違いない。これからの観光地に求められている視点が何なのか。

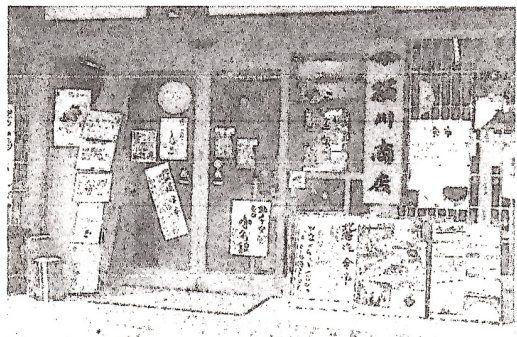
全国都市緑化フェアは、国土交通省の提唱で昭和53年から毎年、全国各地で開催している「花とみどりのイベント」で緑豊かなる

京都新聞のコラム凡語さんは舞鶴市内の「近所大学」の取り組み「地域の誰かが先生」がコンセプト。趣味や特技、経験を生か

2月からEUへの酒類が関税撤廃になった

関係か、外国人旅行者の日本酒への関心が高まっている。日本酒は、およそ5度ごとに呼び名が違ふ。ぬる燗は40度、45度で上燗、

50度で熱燗と呼び、冷蔵庫などで冷やす冷酒だと、5度に「雪冷え」、10度には「花冷え」の呼び名が付く。日本酒は香り、味わいが温度によって変わる。大北地域の清酒の素晴らしさを、酒の知識を添えて訪れたお客様に案内できる人が多く住む地域でありたい。



大町市内の横川商店の取り組みは、北アルプスの魅力を伝える場所でもある

(NPO)法人 信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上